

第3期 地域おこし協力隊

地域おこし協力隊の活動

長浜市が地域おこし協力隊に求めている活動は、月に16日間。隊員たちは地域団体などと連携し、自身の目標の達成のため、日々奮闘しています。

また、定期的に隊員同士が集まって活動の打合せや課題の相談などを行い、時には共同で活動するなど隊員相互の連携も図っています。

地域に暮らす隊員たち

隊員が住んでいるのは、空き家だった集落内の民家。地域の人からサポートを受け、人の暖かさや優しさを実感しながら、日々の生活を送っています。

また、隊員たちは地域に溶け込むと、積極的に、地域の行事や祭に参加。地域に根差した暮らしとなっています。

活動以外は何をしているの？

隊員が集う憩いのカフェ。中山隊員が古民家を改装してオープンしたカフェです。

通常のカフェメニューに加えて、自身のミッションである在来種のお茶を提供するほか、お茶の粉末を利用したスイーツも提供しています。

また、隊員たちは活動時間外には副業が認められており、このように、店舗の経営や起業に向けた活動をするなど、任期後の生活の基礎を作っています。



隊員たちの活動をチェック！
地域おこし協力隊フェイスブック
をぜひご覧ください。



▲隊員が経営する古民家カフェでの隊員同士の団らんのひと時

※この特集は、16ページの「市民からのメッセージ」の対象です。

隊員に応募したきっかけは「地元の人たち」

数年前から余呉地域に縁があり、地元の人と交流が生まれ、この地に移住したいという思いを抱いていた私にとって、地域おこし協力隊の募集は渡りに船でした。山林資源の経済的利用というテーマが面白く、また、家に薪ストーブがあり、薪を自給したいという願望もあったので、ミッションは自伐型林業を選びました。



こばやし 葉さん
余呉町東野
任期：平成30年10月～令和3年9月

地域資源を利用し、長浜で暮らしていきたい

ほどほどの収入でも山林や田畑という地域資源を利用することで、十分暮らしていけるということを確認し、発信して、移住定住の流れができれば、と考えています。

林業は数年スパンではなく、数十年、やり方によっては百年以上先を見据えて施行できるのが他の仕事にならない面白みだと思うので、任期後もこの地に定住し、体が動かなくなるまで携わっていききたいです。



が他の仕事にならない面白みだと思うので、任期後もこの地に定住し、体が動かなくなるまで携わっていききたいです。

自伐型林業 地域資源を利用する暮らし



家財道具の有効活用

現在、余呉の築100年近い古民家を、暮らしながら活用させてもらっています。

全国的に空き家・古民家の活用が進まない要因の一つは「家財整理がされていないこと」であるといわれています。

そこですは、家財の中の「古家具」や「古民具」の活用から始めることを考えました。前職の家具修理の経験を活かして、古家具を棚として使いやすいうようにリメイクしたり、古家具からフォトフレームなどの雑貨を制作したりしていきたいと考えています。現在は、倉庫



▶木材を使って作成したカッター

活動を発信して、家財整理のきっかけに

これからの活動の中で、古く使っているものでも、壊れてしまったら使いやすくなったり、楽しくなったりするという方法や、直して使う楽しさも発信していきます。そして、この活動が家財整理のきっかけになり、空き家・古民家活用が進むようになっていけばと考えています。

の屋根の修理やリメイクの試作をしながら準備を進めています。



ふじもと りょうすけ
藤本 龍介さん
余呉町上丹生
任期：平成30年10月～令和3年9月



古民家活用 古家具や古民具を使った商品の開発